建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

建築主：溝口徹・溝口澄子
設　計：株式会社キジュウロウ ヤハギ
施　工：日本建設株式会社東京支店
所在地：市川市須和田1－34－8

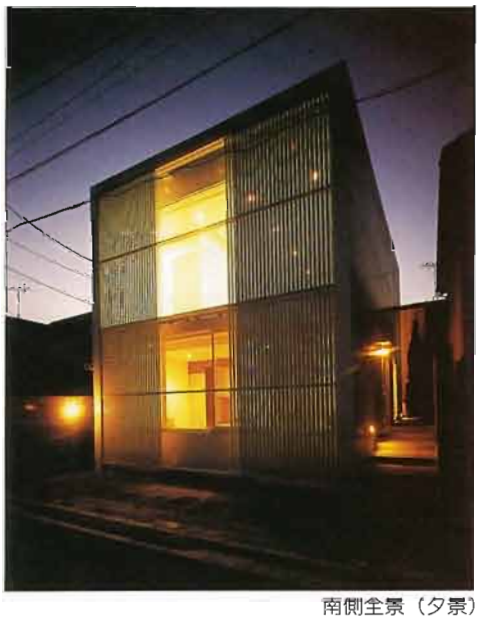
端正な表情をもつ住宅

市　川　の　家

市川の住宅地の中に建つこの住宅は、縦ルーバーのファサードが美しく、日本的で端正な外観を持つ。整理された表情だが、縦ルーバーは日本の伝統的な格子のモチーフに通じるせいか、周辺との違和感もない。ルーバーの断面が三角形で、外部の視線を上手にコントロールしている。これは特注の形状で、丹精につくられた工芸品のようである。内部空間は隣地との間に2層分の壁をたてその上部からの光を巧みに使って構成されている。熟年の夫婦二人の住まいとして成熟した趣味やライフスタイルに適合して、見事に住みこなされている点もこの住宅への評価となった。ただし前述の2層分の壁はもともとあった外壁の位置というを説明を受けたが、隣地への圧迫感は気になるところでもある。そう広くない住宅地にあってプライバシーを守りながら、隣地との関係を良好にするという難しさはあるが、高いレベルのデザイン性を有した住宅作品である。

(篠原聡子)

2階リビング（南側より）



南側全景（夕景）

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

建築主：京成電鉄株式会社
設　計：戸田建設株式会社一級建築士事務所
施　工：京成建設株式会社
施　工：戸田建設株式会社千葉支店
所在地：千葉市中央区本千葉町15－1

街に華ぎを演出する

京成ホテル・ミラマーレ

ホテルは京成線千葉中央駅の東口に続く典型的なステーション複合施設。周辺の映画館、駐車場、商店などを吸収して建築面積3,376m²、地上16階地下2階の大型ビルに変身した。

かつての京成千葉駅は、終着駅として現在の中央公園にあり、当時の市内中心部に直結していたが、千葉市が戦後大型都市に変貌する過程で、その位置を現在地に変え、終着駅名も中央駅とした。

駅の移設からおよそ45年。都市構造やスケールが次第に変化する中で、千葉市の表玄関はJR千葉駅に委ねられ、京成終着駅ビルには、現在の立地条件を生かす新たな都市機能の創出が望まれていた。

その一つは地域のランドマークであること。ついで近隣商業空間との融合が設計主旨とされ、実現したモダンデザインの外観は街の表情に華やぎを与え、特に最上階のスカイバンケットと下層部のガラス張り外壁越しに輝く夜間営業の照明は、あたりを包み込む美しい夜景演出を成功させている。

新装の京成ホテルの出現が、官民協力する千葉市の活性化と都市景観形成の推進力となることを期待したい

（野口瑠璃）

新しいランドマークの出現

明るいガラス張りのチャペル